

沖縄尚学高校野球部、優勝おめでとうございます。明るい話題の少ない昨今、久々に沖縄県民に感動と自信を与えてくれました。

今月号の表紙写真は島袋洋先生のコペンハーゲンの運河です。ここはNyhavn（新しい港町の意）と呼ばれる地区で、ヨットの多さに驚かされます。私も24年前にスウェーデン留学中、コペンハーゲンに1週間滞在しましたが、写真のようにとても綺麗な港町でした。

さて、4月から2期目の宮城執行部体制となりましたが、嶺井進常任理事、瀧下修一理事、村田謙二理事、今山裕康理事の4名が退任されました。ご苦労様でした。日本医師会も唐澤祥人会長が再選されました。唐澤会長は挨拶で、日本医師会の基本的使命は學術団体として国民医療に貢献することであり、普遍的な医療提供体制の確立が最重要だと述べられました。会員皆で結束して、唐澤会長、宮城会長を支えていきましょう。

今月号は多くの報告がありましたが、トピックスは沖縄県医師会県民公開講座です。「健康長寿へ向けての新たな取り組み」と題して、崎山八郎先生、久田友一郎先生、石川清司先生にご講演いただきました。沖縄県の長寿復活への道は県民の生活習慣の見直し、特に肥満対策だということが見えてきましたが、今後の具体的取り組みに期待したいとおもいます。まず、久田先生の提言されたグラフ化体重表に自分の体重を記録することから始めましょう。

生涯教育コーナーは琉球大学医学部内分泌代謝内科高須信行先生の「バセドウ病」です。甲状腺腫、頻脈、眼球突出のMerseburgの三徴、久しぶりに学生時代を思い出しました。高須先生、ありがとうございました。プライマリ・ケア

コーナーは沖縄赤十字病院脳神経外科饒波正博先生です。Trauma bypass、Stroke bypassの概念、今の日本の救急体制整備に必要なだと思いましたが、CPSSのようなトリアージに役立つスケールももっと普及するべきだと思いました。

インタビューコーナーは琉球大学医学部精神病態医学分野の近藤毅先生です。近藤先生には県医師会医学会精神神経学会長としてご尽力いただいておりますが、児童思春期精神科領域もご専門で、学校保健の地域連携事業にもご協力いただいております。うつ病もご専門で、沖縄県の長寿復活にもご活躍を期待しております。

若手コーナーは浦添総合病院救急総合診療部齊藤学先生です。スペシャルティーを追い求めての鹿児島での内視鏡研修です。スペシャリストと議論できるジェネラリスト、救急総合診療医の求めているものがよく表されておりました。

リレー随筆は中部徳洲会病院池原康一先生の「沖縄を離れたから、沖縄が見える。」です。まさに故郷は遠くにありて思うものです。ただ私も故郷の悪しき風習は改善すべきだと思います。てるや整形外科照屋勉先生の「食育のすすめ～パートⅡ～」では校医をしている具志頭小学校での食育の実践報告です。メタボ対策は言うは易し、行うは難しです。照屋先生の続報に期待しています。

今月から感染症情報が変わりました。問題点がございましたら私までご一報下さい。

待望の沖縄県医師会館の工事も順調のようで、6月には3階の棟上を予定しているようです。12月の医学会総会が自前の会館で開かれることを待ち望んでいます。

広報副担当理事 野原 薫